

講評

I

出典 岡田暁生「音楽の聴き方―聴く型と趣味を語る言葉」

「言葉にしにくい芸術である」という特性を持つ音楽が、「言葉を超越した存在である」として聖化された背景を、ドイツ・ロマン派の詩人の価値観に基づいて説明しています。ロマン派の価値観と超越的世界との関係を正確に把握することがポイントです。以下では、説明が必要と思われる設問のみ解説しています。

問1【漢字問題】（解答番号は①～⑦）

画数が比較的少ない漢字二字の熟語ですが、前後の文脈から適切な語義を読み取ることが必要になります。その点がやや難しかったためか、全問正答した受験者はいませんでした。

問3【前後の文脈から適語を選ぶ問題】（解答番号は⑨～⑫）

空欄①は「どこからが対象なのかの区別すらつかなく…」が、空欄②は「禁忌の意識」や「畏れ」などがヒントです。空欄③にはLieder ohne Worteを踏まえた語を、空欄④は「神」を意識した語を選択します。正答率はそれぞれ47%、54%、79%、51%でした。

問4【前後の文脈から適語を選ぶ問題】（解答番号は⑬）

直前に「音楽は…魔術である。」と記され、「魔法にかかるために人は…合理的な思考をいったん停止しなければ…」と文が展開することに注目します。正答率は51%でした。

問5【前後の文脈から適切な文を選ぶ問題】（解答番号は⑭）

音芸術のある種の特性をいったん認めながら、その神秘の強調は近代からという文脈の把握が重要です。末裔という語がキーワードになります。正答率は28%でした。

問7【内容理解に伴う傍線部の説明問題】（解答番号は⑯）

音楽の聴き方や語り方の「強い縛り」となっているのは、「沈黙」を聖化しようとする考え方であるという文意が理解できているかがポイントです。正答率は16%でした。

問8【内容理解に伴う傍線部の説明問題】（解答番号は⑰）

音楽と宗教を、どのような観点から比較し、どのように評価しているかを問う問題です。「音楽が世界を救う」という重要な記述があります。正答率は54%でした。

問11【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は⑳）

近代のロマン派の芸術家は、音楽を聖化し、世界を救済する絶対的存在として捉えたことが本文の主題です。①当時の一般的な評価であって普遍性ではありません。④時代の枠組みの理解に誤りがあります。⑥ロマン派詩人と音楽史観の正当性については本文では言及されていません。正答率は44%でした。

II

出典 酒井邦嘉「科学者という仕事—独創性はどのように生まれるか」

独創性はどのように生まれるかという問題意識の下、科学者の仕事についての考えをまとめた本です。わかりやすい言葉で論理的に書かれた文章ですから、容易に文意をつかめるはずです。

問1【漢字の書き取り問題】（解答番号は21～25）

正確に書けている答案は少なく、全問正答した受験者の割合は全体の7%でした。

問2【空欄補充・前後の文脈から適語を選ぶ】（解答番号は26・27）

空欄甲は直前の「多様性の少ない」が、空欄乙は小見出しの「孤独の喜び」がヒントです。正答率はそれぞれ49%、51%でした。

問3【空欄補充問題・前後の文脈から適切な言葉を選ぶ】（解答番号は28）

空欄の前後の内容を読めば正答は容易に導けます。正答率は86%でした。

問4【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は29）

傍線部Aの直後の文をよく読めば③は誤答であるとわかるはずです。正答率は58%でした。

問5【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は30）

皆が行おうとする、成果を出しやすい仕事の比喻ですから①は不正答。正答率は72%でした。

問6【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は31）

直後の諏訪内晶子氏の言葉がヒントになるでしょう。正答率は65%でした。

問7【言葉の意味を理解して該当しないものを選択する問題】（解答番号は32）

物事が思いどおりに進行するという意味の「流れに棹さす」が正答。正答率は56%でした。

問8【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は33）

「自己の内的要求に耳を傾ける」を正確に読み取れば、簡単です。正答率は65%でした。

問9【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は34）

誤答の①を選択した受験者が散見されましたが、「個人の力が弱いため集団による研究に負けてしまい」が本文の内容に合いません。正答率は42%でした。

問10【内容を理解して小見出しを選択する問題】（解答番号は35）

本文中の「独創性から逃避しているのではないだろうか」がヒントです。⑥を選択した受験者もいましたが、中心的な話題はモラトリアムよりも独創性の話です。正答率は51%でした。

問11【内容を理解して小見出しを選択する問題】（解答番号は36）

誤答として⑤や⑥を選択した受験者が多数いました。組織の調和や独創性の芽についてももちろん言及されていますが、ここでの中心的なテーマが日本と西洋の違いであることは本文をよく読めば気づくでしょう。正答率は28%でした。

問12【内容合致問題】（解答番号は37）

完答ということもあり正答率は7%でした。④・⑦を選択している受験者がいました。孤独のとらえ方に幅があることについて「日本と異なり」とまで本文では言及していないため、④は不正答です。また、「他人に左右されず決して群れない人材を大切にする必要がある」とまで著者は主張していないため、⑦も本文の内容に合致しません。②・③・⑤・⑥・⑧で行われている説明が本文の内容に合致しないことも、本文をよく読めば確認できます。